



雲南映像プロジェクト実行委員会設立

雲南市を舞台にした映画「うん、何？」やまたのおろち伝説」がクラウドファンディングし、8月1日には、映画を支援する実行委員会が立ち上がりました。

この映画は、市内の遺跡や神楽を背景に、ヤマタノオロチ伝説を織り交ぜた青春ストーリーで、旧平田市出身で「白い船」や「ミラクルバナナ」の錦織良成監督が手がけます。



総会には、市内各団体・企業の代表者や行政関係者など70名が出席。陶山吉朗会長が「この映画を通じて雲南市を全国へ発信する」とともに、心に

創りたい」と制作への意欲を話しました。現在、市内各地で映画スタッフが撮影をしています。うんなん映像プロジェクトでは、撮影情報等をホームページ（<http://www.unnan-movie.com/>）で公開しているほか、作品に対する協賛金やサポーター募集なども引き続き行っています。詳しくはうんなん映像プロジェクト事務局（市役所商工観光課内 ☎0854-401015）までお問い合わせください。



第3回銅鐸の響き加茂弥生まつり火柱建立イベント参加者募集

銅鐸の響き 加茂弥生まつりを今年は10月8日(日)に開催することとなりました。今回は、その祭りのシンボルである火柱を市民のみなさんと建立し、今までスタッフしか味わうことのできなかった**充実感・感動**をみなさんと共有したいとの思いから火柱建立イベントを開催します。男女問わずどなたでも参加いただけます。みなさんのご参加をお待ちしています！

日時 9月24日(日) 9時～
集合場所 ラメール北広場
準備いただくもの 軍手、作業できる格好
業務内容 火柱材料運搬 火柱建立
申し込み期限 9月22日(金)

【問】銅鐸の響き加茂弥生まつり実行委員会事務局
(加茂総合センター自治振興課内)
☎0854-49-8601

雲南市長の「うん、何？」

チエリヴァホールで「雲南市民で童謡を歌おう会」が発足しました。その際の講師で、普段童謡の普及に努力され、またハーモニカ奏者でもある「もり・けん」さんの講演を聞きまし



7月22日の雲南市民で童謡を歌おう会設立の際

加茂町発

わがまちの

この「うん」では、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

巧み

島根県ふるさと伝統工芸品 加茂刃物

今月は、加茂町三代地区にお住まいで、島根県のふるさと伝統工芸品に指定されている加茂刃物の製作をしている舟木隆善さんを紹介いたします。



島根県ふるさと伝統工芸品 品名 加茂刃物 島根県



加茂刃物

旧仁多町に生まれた舟木さんは、小学校卒業と同時に実家の刃物づくりに就業してこられ、昭和36年5月に独立、現在の場所へ「隆善鍛冶」として鍛冶屋を創業されました。以来、舟木さんは包丁や鎌、鉋などの刃物製作に取り組み、その作品は加茂町の特産品「加茂刃物」として定着し、昭和57年には、島根県のふるさと伝統工芸品に指定されています。

刃物が出来るまで

舟木さんの刃物は、元となる鉄Ⅱ軟鉄を炉に入れ、焼きあがったものに、鋼Ⅱヤスキハガネを差し込む「割り込み」という、刀鍛冶の流れをくむ工法で行われています。

現在ではほとんど見られなくなったこの伝統的工芸を通して、1本1本丁寧に研ぎすまされ加茂刃物は作られます。そして、舟木さんによって命が吹き込まれ「高い硬度」と「耐久性」を備えた作品が出来上がります。

刃物づくりへのこだわり

多くの鍛冶職人たちが、生産の効率化を求め、機械導入



による刃物づくりや工場化による流れ作業に変わっていく中、舟木さんは、手仕事による刃物づくりを続けられています。舟木さんは「炉に入れるコークスなども高価で仕入れにくくなってきたが、使用され



ている方から「使いやすい」「手になじむ」などの反響を聞くことやりがいを感じます。現在、自分の後継者はいないが、包丁などに刻まれた隆善印の刃物が後世に伝わるようにこれからも精一杯作り続けたい」と話してくれました。

